**1 散布図と相関係数**

**問題１**

　別途データファイル参照

相関係数を求めるExcel関数は、CORREL()である

　散布図と相関係数を求める例題は、109ページの図５にある。

**解答**0.55

**問題２**

無相関の検定（相関係数の検定）については、110ページに記述してある。

　「統計的に有意でない」とは、90ページに記述してあるように、帰無仮説が棄却できなかったことである。この場合は、帰無仮説が誤っているとは言い切れない（91ページの記述）。

**解答**　④

**問題３**

相関関係は、「片方の値が変化すると、もう片方の値も同じように変化する関係」であり、因果関係は、「原因と結果になる関係」である。

相関係数ｒは、－１≦ｒ≦１ である。相関係数の絶対値が大きいほど、強い相関を示す。

**解答**③

**問題４**

受療率は、164ページに記述してある。

　グラフから、各都道府県の循環器疾患の外来受療率は、400人から1100人の範囲に分布している

　同様に、内分泌・代謝系疾患の外来受療率は、250人から500人の範囲に分布している。

　また、第1四分位数は、23ページに記述してあるように、小さい順に並べたときの、下から25％の値である。

**解答**③

**問題５**

グラフから、一人当たりの医療費は、12万円弱から17.5万円の範囲に分布している。

同様に、リスク保有率は、16％から20％の範囲に分布している。

　これらのことから、問題に記述されている２つの度数分布表は、左側（11～12の階級の度数が１）が医療費の度数分布表であり、右側（11～12の階級の度数が０）がリスク保有率の度数分布表であることがわかる。

　また、中央値については、14ページに記述してある。

**解答**(1) 14.0～15.0　　　(2)　17.0～18.0